



野生に帰るのは…いつ

灰色熊と過した一年三ヶ月！
美しいコロラドの四季の中に
胸打つ感動でつづる愛と別れの詩

製作マーティン・ストーファー
撮影マーティン・ストーファー
マーク・ストーファー
ジョージ・スタイフルフォード

■日本版スタッフ■
監督大林宣彦 / 作詩岸田衞子
音楽宮崎尚志 / 録音林 昌平
編集小川信夫 / 助監督福田幸夫

さよなら

〈カラー作品〉

ロッキーの仲間たち



グリス!!
へんな奴にかまうなよ!



おっと!!
それは食べ物じゃないよ!

くすぐりたいな、アツ!!
かじるんじゃないよ!

さよなら ロッキーの 仲間たち



もうすぐお前とも
お別れだ...

この映画の主人公は可愛らしく、好奇心が強くていたずら好きなきな灰色熊の子供。グリスリーとよばれる灰色熊は体重50キログラム、体長4mに達する地上最大の肉食獣だ。獰猛でも家畜も見境いなく襲う、という誤解をうけインディアンやカウボーイから目の仇にされ、乱獲の結果コロラド州では絶滅したものと恐れられていた。物語はマーティーが野生動物の観察中に、その灰色熊の足跡を発見する所から始まる。彼は自分の手で生後の週間のメスの子熊を育て上げ、母親代りに大自然の厳しい法則を教えこむ。何を食べたら良いのか、他の野生動物のこと、冬眠、そして彼自身も含めた人間(最大の敵だ)からいかに身を護るか……。悲しい別れ、そして家族を連れだ彼女との再会——ロッキー山脈の美しい四季を舞台に、ふたりの心のふれあいを時にユーモラスに、心暖たまるタッチでつづったこの映画は、「野生のエルザ」以来の深い感動をよびおこすことだろう。

製作・監督・主演を兼ねるマーティー・ストーファアは、アメリカでも有数の動物ドキュメンタリー作家として知られ、ポール・ニューマンやロバート・レッドフォードがナレーターをつとめた「野生の王国」「ザ・プリディターズ」はいづれも高い評価をうけている。彼のテーマは絶滅の危機に瀕する野生動物の保護であり、基金の設立、写真集の発表、「リーダーズ・ダイジェスト」をはじめとする各種雑誌への定期的寄稿と、彼の活動は幅広くエネルギーに富んだものだ。



The Man who Loved Bears

グリスの仲間たち...

- ビッグ ホーン ●コヨーテ
- カンジキウサギ ●ジリス
- ボブ キャット ●バイソン
- シロイワヤギ ●オオカミ
- アラスカヒグマ ●オコジョ
- ハイロギツネ ●ほか大勢

マーティー・ストーファア・プロ
サンリオ配給

■同時上映■
チノの鈴
カラー長篇アニメーション

感動の
4月26日(土)よりロードショー
特別鑑賞券1000円小人券700円発売中!

ニュー東宝 1 (571) 新宿武蔵野館 (354)
シネマ 1946 5670

上映時間	平日	12:30	3:00	5:30
土日祝	10:00	12:30	3:00	5:30